



ロータリー：
変化をもたらす

宇都宮ロータリークラブ会報

R1テーマ「ロータリー：変化をもたらす」

宇都宮ロータリーテーマ「一歩前に進みましょう」

第2550地区ガバナーテーマ「チャレンジ&イノベーション」

～挑戦と変革で切り拓く、第2550地区の未来～

2017～2018年度RI会長イアンH. S. ライスリー 宇都宮会長 印出井敏英

第2550地区ガバナー 太城敏之 幹事 飯村 悟

例会日 火曜日12:30 会場 宇都宮東武ホテルグランデ 宇都宮市本町5-12

事務所 宇都宮市江野町1-12 栃木実業ビル2階 TEL 028-666-0555

E-mail u-rc01@silver.plala.or.jp FAX 028-666-0333

(2018) 平成30年4月17日 No 36 2017～2018年度 (第3240回会報)

会員数 102名 出席者数 63名 出席率 67.7%

ビジター紹介 (親睦活動委員会 金子昌郎副委員長)

宇都宮市長 佐藤栄一様 (ゲストスピーカー) 川島優太様

会長挨拶 (印出井敏英会長)

皆様、こんにちは。今日の卓話は、宇都宮市長さんです。お忙しいお時間をさいていただきました。宇都宮市のお話をお伺いすることになっております。LRTの認可を受け、いよいよ着工が始まっているようです。

2022年完成ということですが、早く完成していただきたいです。消防自動車を3台頂き、タイで贈呈式を行ってきました。来期に、1台頂きます。貴重な財産を有り難うございました。

ニコニコボックス委員会 (金成倫委員長)

結婚祝：三井勝滋会員 渡邊定夫会員 旭野好紀会員

奥様誕生祝：渡邊定夫会員

青木紀一郎様：講演者ご奉仕

プログラム紹介 (プログラム委員会 松本春枝委員長)

本日は、宇都宮市長佐藤栄一様をお迎えしております。「宇都宮のまちづくりについて」という題目で、お話を頂きます。それでは、宜しくお願い致します。

卓話 「宇都宮のまちづくりについて」

宇都宮市長 佐藤 栄一 様



皆様、こんにちは。宇都宮ロータリークラブの皆様にお招きをいただき、ありがとうございます。皆様、いつもの顔ぶれで安心してお話をすすめることができると思います。今年度の予算をお話させていただきますが、皆様方のおかげで税収も伸びております。1月には松本プログラム委員長の元で「NHK のど自慢」を、宇都宮で開催をさせていただきました。参加者、観客合わせて約1万人の方の応募があり、予選に約300人の方が出られました。宇都宮また栃木県の方はのど自慢が好きなんだな！と思いました。

本日は「宇都宮のまちづくりについて」お話をさせていただきます。人口減少、少子超高齢化です。これが地方の大きな課題です。宇都宮市も、何も手を打たなければ、また、行政が何もしなければ、2050年

には、マイナス7万人、人口が45万人まで減少します。今年は微増ながら増えていますが、7万人減少ということは、7万人の消費が消えます。当然様々な方の商売の売上が減少し、勤めている方の職種が変わり、これからの子ども達が就職難ということになるかもしれません。そこから生み出される税収力も減ってきますので、行政も大変な時代になっていくと言えます。宇都宮市はマイナス7万人、約14%減です。何もしなければということですが、何とか手を打って、マイナス2万人、人口50万人は維持していきたいと思っています。青森県・山形県は何の手も打たなければ、青森県は37%減・山形県は31%減となる見込みです。東京都は増減がほぼなしということ。東京都の中でも中央区は、30%の増加が見込まれ、タワーマンションが続々建設されています。青梅市は逆にマイナス30%と都内の中でも人口減少が起きています。夫婦の共働きが増え、オフィスに近い所のタワーマンションに人が入っています。特にお子さんをお持ちの方は、迎えに行くのが便利、そしてあまり距離を移動しなくても済む、公共交通で十分という環境が整っている所は人口が増えています。仕事や衣食住の環境がきわめて近いという近接型まちづくりで、これから選ばれるまちになっていくものと考えております。人口が減少していく市や町がどうなるか。市議会議員・町議会議員のなり手がいなくなると思います。今でもその様な時代になっていますが、当然議員さんだけではなく、職員・公務員のなり手も少なくなってくると思います。私見ですが、人口40万人以下の自治体は1つで十分ではないかと思っております。そこから飛躍すると、道州制ということになっていきます。道州制の一步手前、どの県・どの市・どの町でも、1つの公共施設を持たなければならない時代は終わります。市町だけではなく、県の中でも今後、公共施設の共有化が言われていくのではないかと思います。財政の面で、維持ができないということで、これからの子ども達の負担になっていくのではないかと思います。今、宇都宮市では約4人に1人が65歳以上と3人で1人の高齢者を支えています。これからは肩車状態の市町村が出てきます。そのような市町村では、県の効率の良い財政を行っていかないと、支えていくことができなくなります。税収が減少し余裕が無くなりますと公共物の老朽化に対しての修復も不可能になり、皆様の会社や私有財産等の力も落ち、社会全体の価値も落ちていくこととなります。このようなことは市にとっては、大変恐ろしいことです。そのような状況を少しでも避けるためには、合計特殊出生率を上げていく必要があります。これは100年200年とかけますが、宇都宮では、合計特殊出生率を上げるとともに、企業・人口の集まりすぎた三大都市圏から人・企業の呼び込みをしなくてはなりません。これは宇都宮市だけではなく、地方自治体全体での共通の課題でもあります。首都である東京は当然、発展をしなくてはなりません、行き過ぎているところもあると思われ。人や企業に選ばれるということになれば、宇都宮の力を最大限に活かし伸ばす人や企業が、宇都宮に進出、あるいは移り住んでみたいという環境を作ることが必要です。ここに宇都宮市の財政年間データがあります。年間商品販売額や製造品出荷額等は、主なる工業団地がこれだけ稼いでいただいていることを示しています。また、農業については、農業産出額も183億円、中核市5位ということになっております。政令指定都市より財政的にもまちづくりの観点からも、動きやすい・つくりやすいのは、中核市です。中核市での上位ランクに入っているということは、全国でも上位だと言えます。

次に、住みよさです。私は三大都市圏をはじめ、全国に企業誘致等で講演をさせていただいております。会場に集まっていたのは、企業の方300社です。1時間30分かけて、何とか宇都宮市に進出していただきたいとお話をいたします。実際にこういった宇都宮市のランキングを示す資料は、市民の皆様が、本市の魅力をわかりやすく伝えることができ、この様な資料を積極的に使い、市民の皆様が全国にPRしていただけると人や企業に選ばれるというステージに立つことができると思います。

では、来年度の予算で、どの様に人に選ばれる企業に、また選ばれるまちを作るのか、重要なのは「子育て・教育の未来都市」をつくるということです。人や企業、特に企業が進出する際、宇都宮に工場を建てる・社員にも皆移ってもらう、その様な時に一番企業が心配をするのが、社員の子ども達が受けている

教育について、これから住む宇都宮でも同等の教育が受けられるのか。もし教育水準が現状以下であれば、企業が進出すると言っても、社員は企業について行かない時代になっています。教育は大変必要で、重要視しなければなりません。支える人間は、これからの若い人達ですから、我々を支える時に支えきれだけの人間力を持っていないと支えきれないと思います。結婚・妊娠・出産・教育・育児のサービスを切れ目なく、どの都市にも負けないよう、宇都宮は市民の皆様へ供給していきたいと思っています。合計特殊出生率を上げるには、まず結婚をしていただく、そして子育てしやすいまちにつなげるということですが、最近結婚をする人が減ってきています。知事が「なんとかせんと、いかん」と、「とちぎ結婚支援センター」を設置いたしました。知事曰く「お見合いの写真を持って歩くような、お節介おばさんが今はいなくなってしまった。だから、コンピューターに選んでもらおう！」と。「知事、コンピューターで入会しますか？」と申し上げたところ、「大丈夫だ」と言う話で始まりました。とちぎ結婚支援センターでは、2015名の方が登録してくれました。登録費は1万円で、2年間有効です。自分のプロフィール・希望する相手の条件をコンピューターに入力し、これに基づいてコンピューターが条件に合う相手をランダムに選んでくれるそうです。良いなと思えば交際が始まります。2015名中、カップルになったのが440組です。そこから成婚となったのはまだ5組ですが、まだ1年経過しておりませんので、知事の先見の明は素晴らしかったと思っています。

また、本市独自に、不妊治療の助成について、行政も一緒になって夢を叶える支援策を作らせていただきました。幼稚園の認定子ども園への移行・保育所等の新設・増改築など、待機児童ゼロの作戦をずっと続けております。おかげさまで、昨年も含め4月1日時点の待機児童はゼロです。ただ新しい建物の保育施設をどんどん作れば良いということではなく、将来は人口減となります。保育施設を作りすぎてしまうと、子どもがいない施設ができてしまいます。今、民間施設の保育園の皆様には大変苦勞をおかけしていますが、「利用定員の弾力化」や「施設の増築・改築」等をしていただきながら、子どもの受け入れ人数等増やしていただいている現況です。1年を通じて待機児童ゼロを目標にしていきたいと思っています。子育ての充実・幼稚園就園児への保護者の負担軽減・貧困家庭・それに準ずる家庭でも、しっかり子ども達に教育、あるいは子育てに専念できる体制を取っています。

次に、教育は、少人数学級を実施すると共に、英語教育については、宇都宮市は本年度から独自に、小学校1年生からいち早くスタートさせていただいております。外国の方々に入ってください、子ども達に英語を親しんでもらおうということで行っています。現在、宇都宮市単独で約470名の先生を雇用しております。本来は国が用意するものですが、文科省では財政が厳しいということで、宇都宮市独自の教育方法に必要な教員を単独で採用しております。年間約10億円かかりますが、子ども達の学力向上のため、子ども達には最高の教育を受けてもらおうと力を入れております。

また、今、和式便器を使用できない子ども達が増えております。小中学校のトイレ整備は、全校一気に変更はできませんので、小学校の一部校舎から洋式トイレに変更しております。将来的にはすべてのトイレを洋式化していきたいと思っています。小中学校93校におおむね2棟ずつで、200棟近くの校舎がありますので、時間がかかることですが、着実に実施していきます。

テクノポリス地区のゆいの杜で、土地の分譲を行いました。LRT導入の都市計画が決定されてから、売れるようになりました。そこに住む子ども達は3キロほど離れた清原中央小学校に通いますが、中学校も含めて、今、満杯な状態です。文科省では1人当たりの床面積・校庭面積の最低基準を定めており、その面積以下の場合は改善に努めなければなりません。そのため、ゆいの杜に小学校を建設することになりました。清原中学校も満杯になることは、目に見えております。小学校新設、1学年5クラスの計30クラス超のマンモス校が誕生します。全国的にも小学校の新設は、まれだと思います。

「産業・環境の未来都市」ですが、企業立地のお話をさせていただきました。本社機能を移転していただけたところに支援しようということで、すでに3社が宇都宮に本社機能を移転して下さいました。そ

れとは別に 1 社様が、日清製粉跡地を買って下さいました。今、昔のコジマ電気様の本社で仕事をいただいております。これも本社機能の一部を移転して下さいました。3×3 等も、この企業様に来ていただいた縁で誘致することができました。本社機能だけではなくオフィス企業の立地に対する支援ということですが、事務職のオフィス企業をどんどん誘致していきたいと考えております。人口が流入より流出が多い部分が、10 代から 20 代前半の女性です。東京の大学に行き専門学校に行つて宇都宮に戻りたかったけれど宇都宮にはオフィス系の企業が無いので、東京にそのまま就職したという方が多いです。転出超過、これに対応していかないと人口が減ってしまいます。オフィス企業誘致、その企業に女性を採用していただいた場合は、更に助成額を出すということで、こちらにも力を入れています。

次に、「健康・福祉の未来都市」です。40 歳以上の乳がん検診に超音波検査を導入しました。医師会の先生方のご指導をいただき導入させていただきました。また、健康ポイント事業・高齢者等地域活動支援ポイント事業についてですが、健康ポイント事業は、通勤で車を使用している所を週に 1 日、自転車通勤したとすると、距離に応じて、1 日 1 ポイントから 9 ポイントが入ります。また、体重を毎週計測するとポイントが入ります。そのポイントを 1 年間ためますと、そのポイントでバスカードなどに交換することができます。スマホの利用を勧めています。もちろんスマホを持たない方でも利用可能ですので、ポイント事業をすすめて、自分の健康寿命を延ばしてもらい、医療介護のお金が出ないようにする、これが我々の大きな仕事だと思っております。次に高齢者等地域活動支援ポイントは、60 歳以上の方が地域貢献活動、例えば城址公園の草取りをした場合、1 回の活動に 1 ポイント、1 年間ためるとバスカード等色んな物に交換できるようにさせていただいております。

「魅力創造・交流の未来都市」では、大谷の観光、産業に力を入れていきたいと考えております。宇都宮の平成 29 年の年間入込客数は 1498 万人です。宿泊数は 159 万人です。本来であれば、あと 2 割ぐらい増でも良いのではないかとされています。その理由はビジネスマンが多いため、平日の稼働率は高いのですが、金・土・日曜日の稼働率は下がっております。それが全体的に下げているので、宇都宮の宿泊数は少ないと指摘されました。1 日十分観光ができるのは大谷です。宇都宮に宿泊していただき日光・益子に行くということにつながっていけば、栃木県全体の観光客が増えていきます。その仕掛けとして DC（destination キャンペーン）と合わせて力を入れていこうと思っております。一昨年の大谷への観光客は年間 48 万人でした。ですが、昨年は 62 万人まで増えました。特に今までは、調整区域の制限があり、なかなか民間事業者が進出しづらい状況でしたが、店舗面積等の拡充などにより規制を緩和し、安全な所に建物を建てていただくゾーンを設定いたしました。オトワレストランの音羽様が、進出したいと今計画をされています。音羽さん曰く「全国の有名なフレンチ系の人達が、おそらく出店するでしょう」とのことです。民間の企業様も観光で進出したい・道の駅の様なものを作りたいといった相談もいただいております。産業では、夏と秋に出荷できるイチゴを作っています。「なつおとめ」という新種で、地下の冷水を家庭用のポンプ等で引き上げ、ハウスの中に苗を並べ、その横に冷水が通ったパイプを置きます。このイチゴは、沖縄へ出荷しております。菓子業界の方に欲していただいておりますが、数が足りない状況です。建設関係の方にも進出していただいておりますので、あと 2 年位で沖縄に十分供給できる体制をとれるのではないかと考えております。その後は、沖縄県的那覇空港を利用できれば、午前 11 時までには宇都宮を出発すると、午後 4 時には沖縄に着くそうですから、タイ・シンガポールへの輸出も視野に入れますので、更なる市場の拡大を考えております。

交通の LRT は 3 月 20 日に、国の工事施行認可をいただきました。3 月 22 日には、県から都市計画事業認可を頂戴致しました。この二つの認可がなければ、工事を始められません。3 月 23 日から用地測量のための調査を始めました。起工式は、5 月の連休明けに実施したいと考えています。皆様方に大変なご協力をいただき、ここまで進めることができました。LRT 沿線の地価が上がっているようです。今泉小学校などは、児童が増えているようです。教室不足になった場合、今泉小学校では敷地内に校舎を増設す

るスペースがありませんので、建て替え時期には高層化などの検討が必要になるかと思えます。5階から8階建ての小学校が誕生することになるかもしれません。多くの自治体が、今後自分の地域で小学校が無くなると考えられております。

国民全体で人口減少に対応・出生率を上げてゆくことが必要です。宇都宮市・芳賀町・益子町・高根沢町等と広域的な連携を取りながら、効率よく運用していくことを考えております。行政として、10年から30年先を見据え長期的な予算を組ませていただきますので、皆様方にもご理解を頂きたいと思えます。これからもロータリーを通じて社会奉仕にも、お力をいただきたいと思えます。ありがとうございました。

=本日の食事=



ちらし寿司
牛すじ煮込み
味噌汁

=卓話予定=

【4月】

4月17日 佐藤栄一 宇都宮市長
「宇都宮のまちづくりについて」

4月24日 クラブフォーラム 「夜間例会」

【5月】

5月 8日 福田富一 栃木県知事
「選ばれるとちぎ」を目指して

5月15日 夢見亭 一生楽（小崎 治 様） 冗談法人「真岡落語研究会」代表
落語 「寝床」

5月22日 さとう もと子様 高龔神社スタッフ・那須与一伝承館スタッフ

会報担当：加藤 雅敏 会員

画像担当：小林 健二 会員